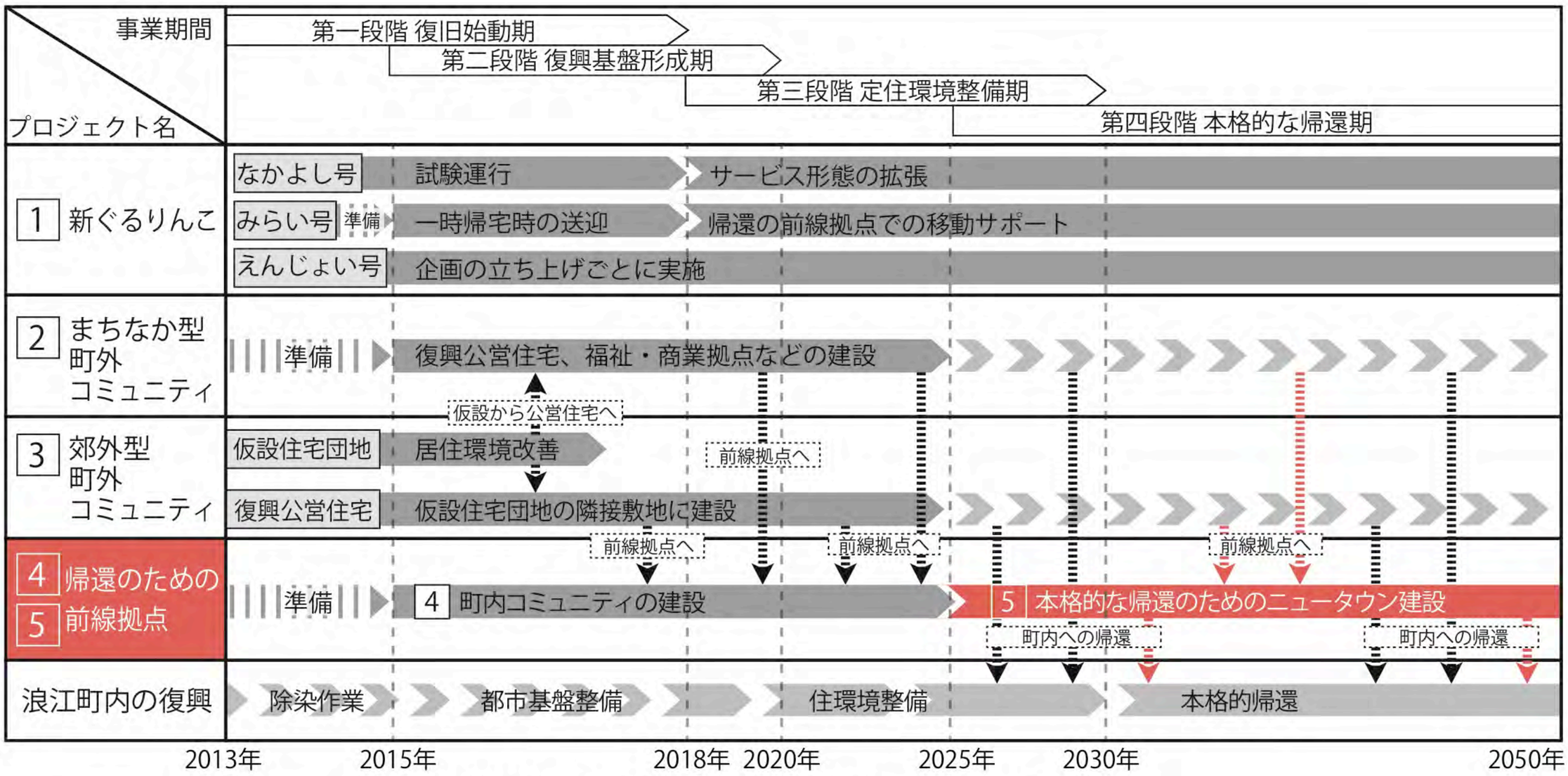
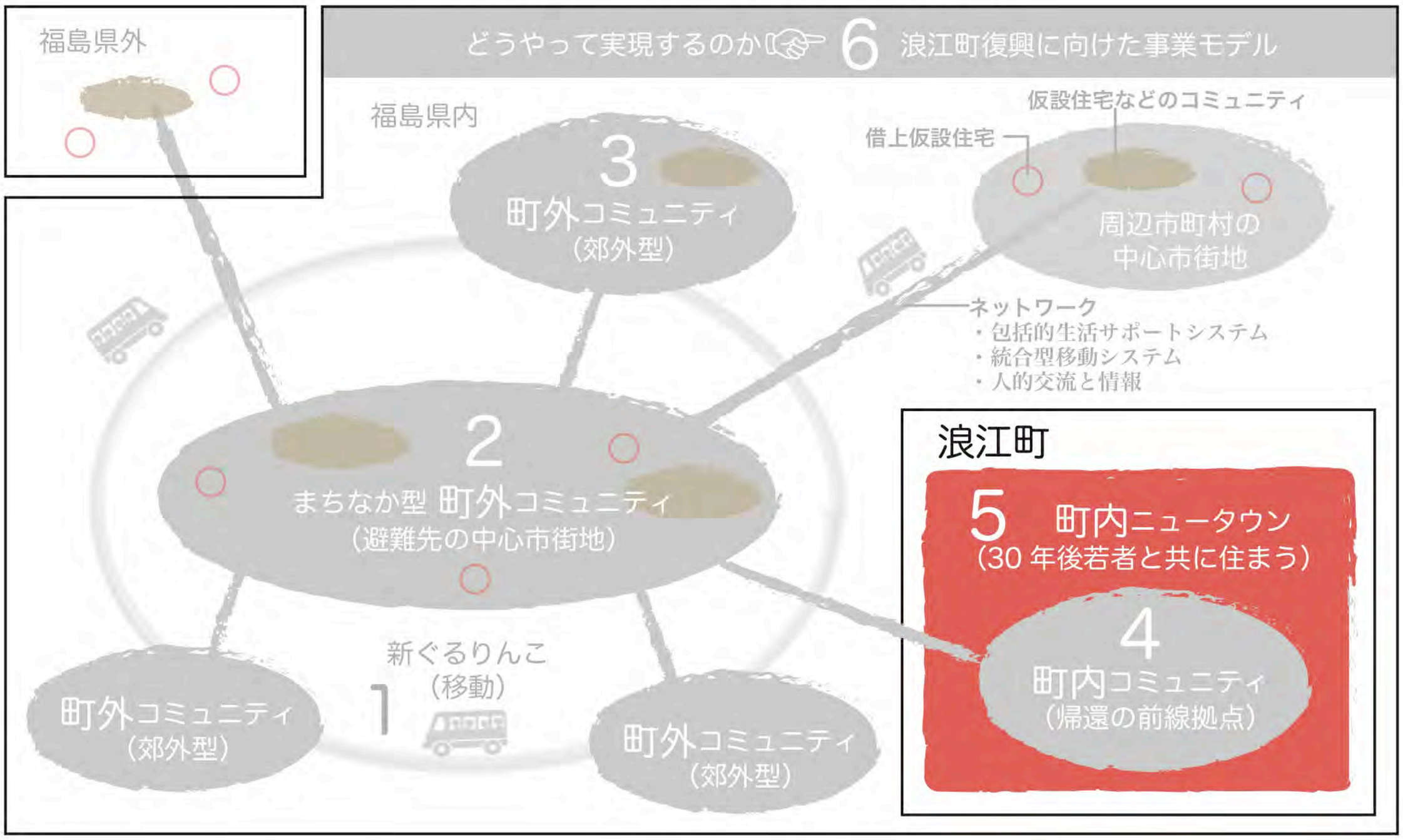
5. 30年後、若者と共に住まう町内ニュータウン

30年後、若者でも戻りたいと望む浪江町の姿とはどのようなものだろうか。沿岸部で空間線量が低く、津波被害の恐れの無い浪江町と南相馬市小高区の間にある広大な台地全体に、1～3万人規模の大きな「仮の町」を描いてみた。

ふるさと浪江に帰還することを強く望む多くの浪江町民のみならず、町の大部分を帰宅困難区域として指定されている双葉町・大熊町の人々が、よりふるさとに近い場所で共に暮らすことも可能になる。将来的に若者と共に住むことで、次の世代に、浪江町の伝統と文化を受け継いでいくことができるだろう。



協働復興のプロセス：「町内ニュータウン」



協働復興のための始動プロジェクト：「町内ニュータウン」

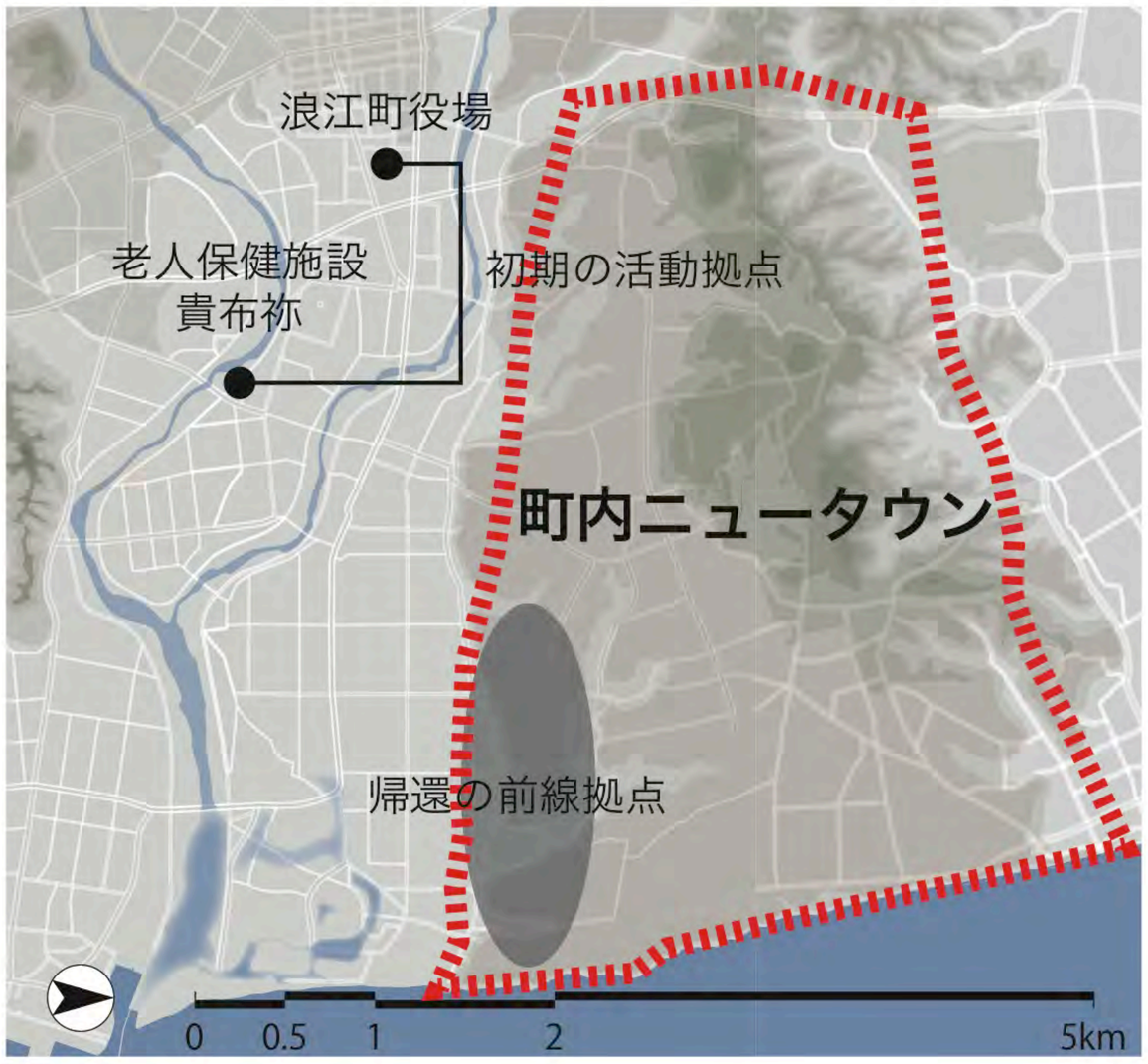
Copyright©2013 なみえ復興塾、まちづくりNPO新町なみえ、早稲田大学都市・地域研究所＋都市計画佐藤滋研究室＋交通計画浅野光行研究室 All Rights Reserved.

町内ニュータウン提案への流れ　　2013年2月9日のなみえ復興塾の議論

浪江町と南相馬市小高区の間にまたがる広大な台地上を対象地とする。まず、都市の３つのパターン（放射状、線状、環状）を示し、それぞれの特徴を紹介した。

その上で、浪江町の方々に自由な発想で、30 年後の夢の町を描いてもらった。次ページに示したものは、ここで町民の方から出た 30 年後のイメージを図に示したものである。

■町内ニュータウンの配置図

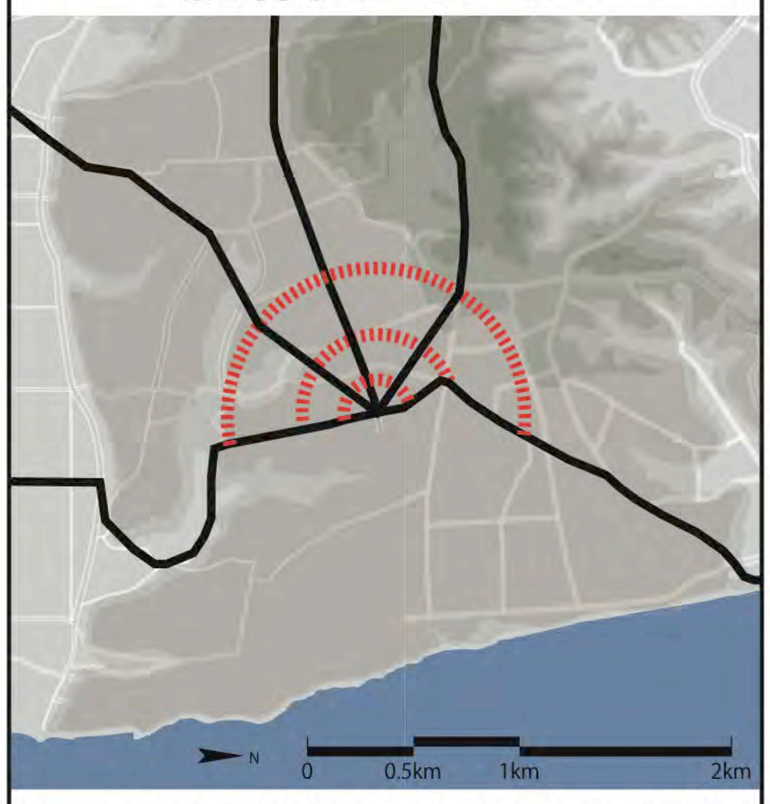


■ワークショップの様子

対象地の地形模型上に、様々な絵を配置していき、新たな都市のイメージについて話し合った。

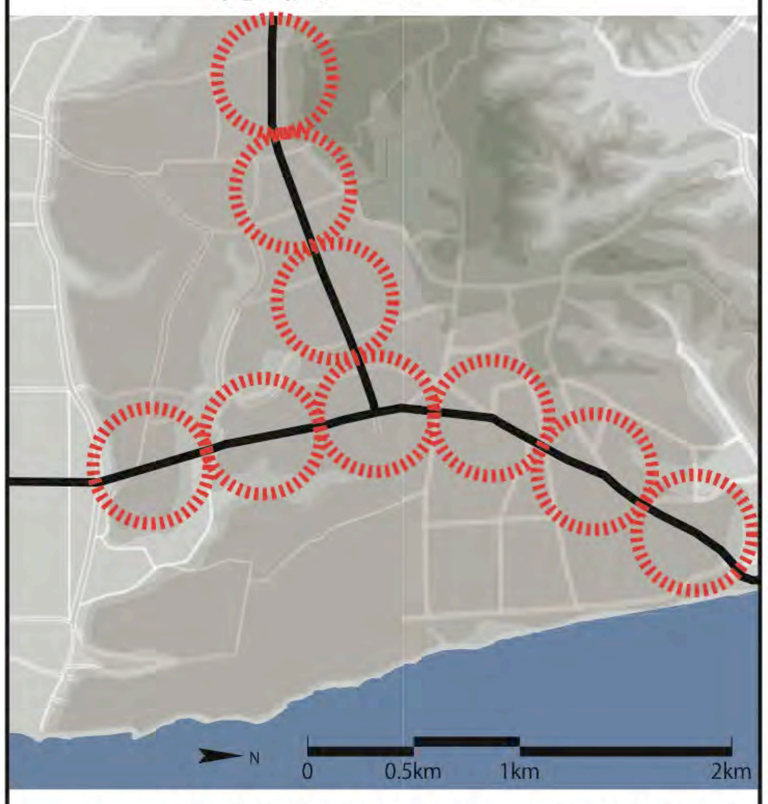
■ワークショップで示した都市の3つのパターン

放射状パターン



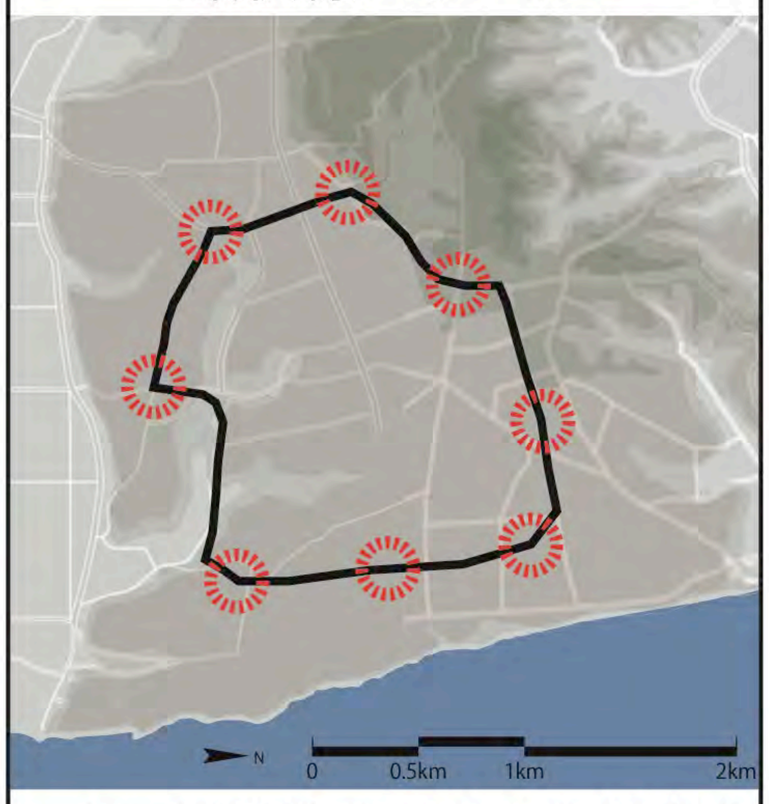
人口規模約 10,000 人を想定する。中心部には高度な機能を備えており、都会的で快適な生活が可能となる。賑わいがあり活力のあるまちが形成される。

線状パターン



人口規模約 6,000 人を想定する。延伸させた浜街道、255 号線を二つの都市軸としており、周辺都市との繋がりが強く、避難路としても有効である。軸沿いに機能的に町が形成される。

環状線パターン

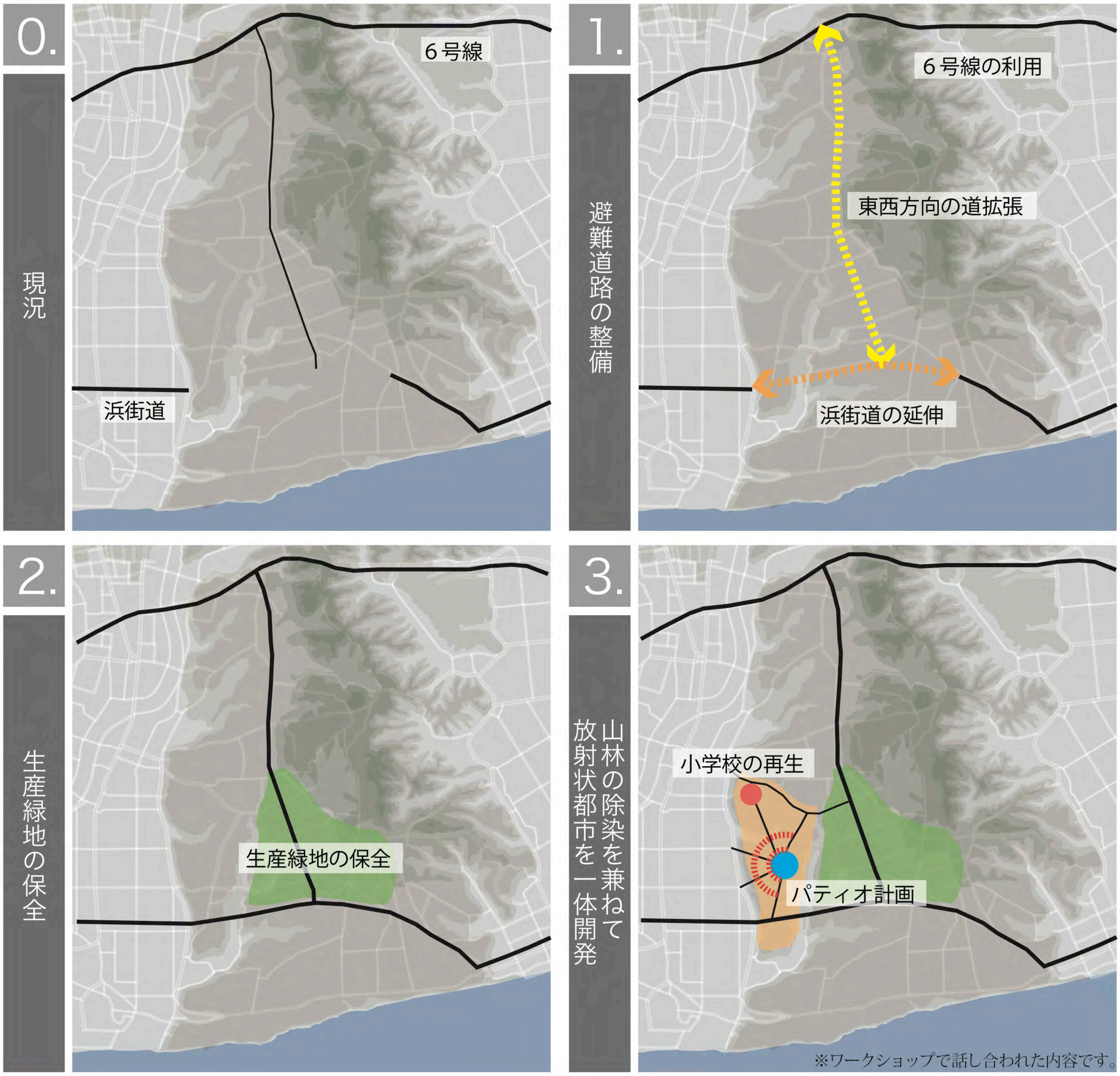


人口規模約 2,000 人を想定する。中央の広大な田畑を囲むように環状線が計画され、自然に囲まれた小さな集落が点在的に形成される。

Copyright©2013 なみえ復興塾、まちづくり NPO 新町なみえ、早稲田大学都市・地域研究所＋都市計画佐藤滋研究室＋交通計画浅野光行研究室 All Rights Reserved.

案1．幾世橋小学校に隣接した南斜面の高台に作る放射状都市

幾世橋小学校の敷地を活用しつつ、山林の除染を兼ねて隣接した南斜面の高台一体に人口規模約 2000 人～3000 人を想定した放射状都市を開発する。



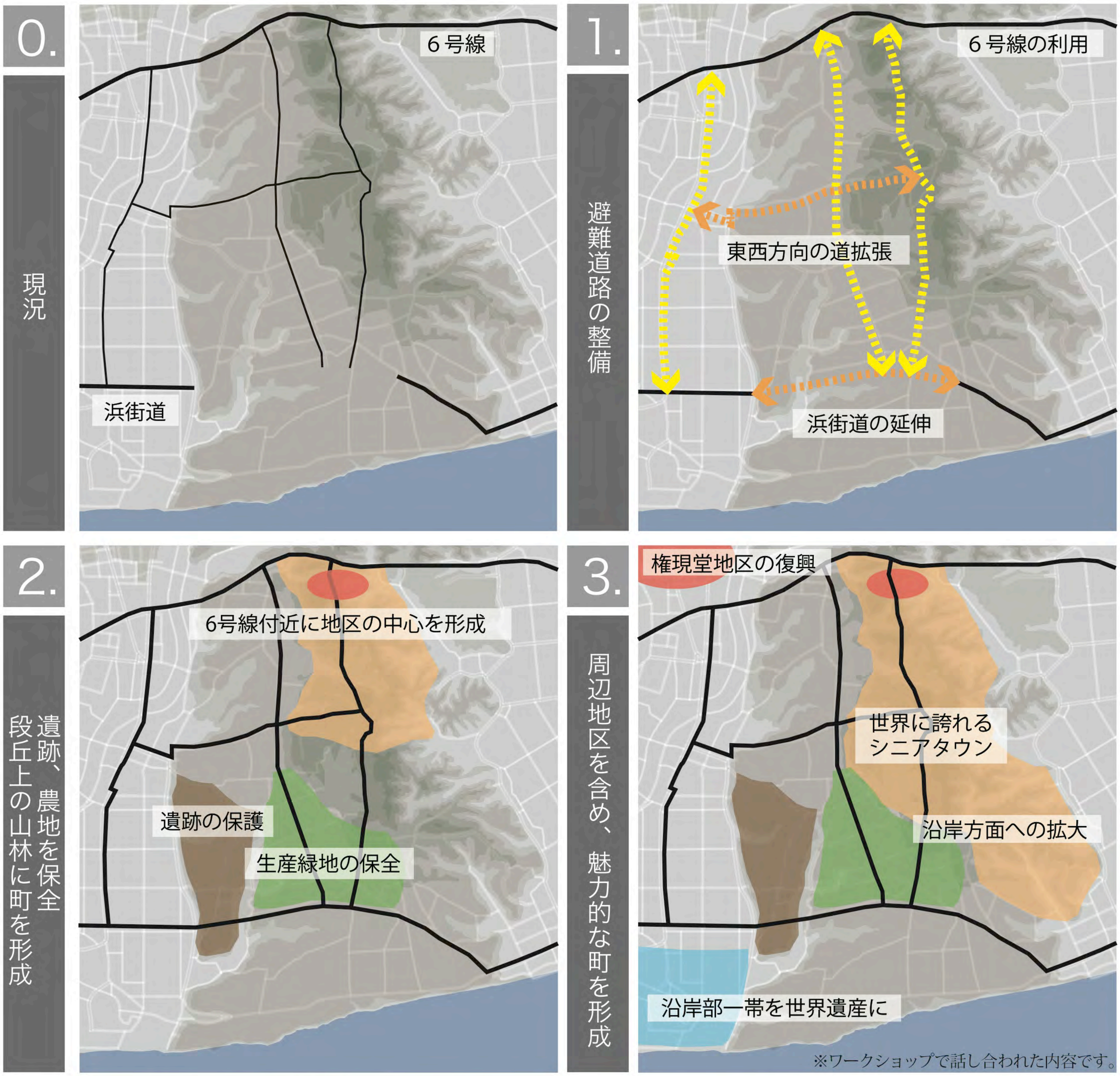
小学校の再生

パティオ計画

Copyright©2013 なみえ復興塾、まちづくり NPO 新町なみえ、早稲田大学都市・地域研究所＋都市計画佐藤滋研究室＋交通計画浅野光行研究室 All Rights Reserved.

案2．段丘上の森林を一体開発した世界に誇れるシニアタウン

地権者の少ない段丘上の森林を利用して、津波で家を失った請戸・棚塩地区の住民及び大熊・双葉、津島などの帰宅困難地区の住民を含めた2～3万人の都市を形成する。



沿岸部一帯を世界遺産に

世界に誇れるシニアタウン

Copyright©2013 なみえ復興塾、まちづくり NPO 新町なみえ、早稲田大学都市・地域研究所＋都市計画佐藤滋研究室＋交通計画浅野光行研究室 All Rights Reserved.